

# ぬいぐるみの糸切りと縫製

2020.01.18

トミー・マック

## 1. 要 点

歩いたり、おしゃべりするお人形や動物などのぬいぐるみ、いわゆる機械的あるいは電氣的な仕掛け（以下仕掛けという）のあるぬいぐるみが故障した時、修理のため中の駆動部や制御部などを取り出す必要があります。

その際、外被であるぬいぐるみ布の縫製糸を切って解き、修理が終われば縫い合せをします。

縫製は非常に難しいと思いがちですが、思い起こせば小学生の頃に、家庭科で雑巾を縫う授業があった方が多いはず。やる気と根気があればできます。

特に動物のぬいぐるみ布は、毛足が長く縫い目が目立たないので、少々荒く縫っても気になりません。お人形のように肌を縫う場合は目立ちますが、洋服を着るので割り切っても良いかもしれません。

ここでは素人なりに知ってる限り、縫製に関する知識や注意点などのノウハウを説明します。

## 2. 方 法

### (a) ぬいぐるみの糸切り

・仕掛け（脚やギアボックス、制御ボックス）などがお腹に入っているぬいぐるみは、それを取り出すため、リッパーでぬいぐるみの縫製糸の縫い目を切ります。

その際、「**どこの糸を切るか？**」が第1のポイントです。

ぬいぐるみの作成工程を考えると、まず初めに脚や手あるいは頭や胴などをミシンで縫って準備します。その後 あらかじめ設けたぬいぐるみの開口部から仕掛けを入れ、最後に手で縫うこととなります。

ですからこの手縫い箇所を見つけることから始めます。

動物ぬいぐるみなど毛足の長いぬいぐるみ布は、毛をかき分けて縫い目を探します。

ミシン縫いと手縫いとの違いは、ミシン縫いの方が縫い目が細かい、また均一に縫われていることで分かります。慣れないと分かり難いです。

手縫い箇所が分からなければ、手の感触で仕掛けの大きさと場所を特定し、「仕掛けを背中から？お腹から？」と入れる場所を推定し、その縫い目の縫製糸を切ります。

第2のポイントは**最小限の範囲で切る**ことです。

必要以上に切ると、修理後の縫製が大変です

・また、電池ボックスをお尻の収納袋に入れ、制御部がお腹に入っている「[プリモエル](#)」のようなぬいぐるみは、収納袋の底の糸を切り、その穴から制御部を出すこととなります。

その場合は、切る範囲も小さく、また修理後の縫い合わせも簡単です。

・ぬいぐるみによっては、「[追いかけてっこアンパンマン](#)」のように足元を結束バンドで留めてあるものもあり、縫製糸を切る必要はありません。

結束バンドを切り裂くか、工夫をすれば結束バンドも切らずに外す方法もあります。

## ぬいぐるみの糸切りと縫製

(b) ぬいぐるみの糸切りの例

- 「柴犬コウタロウ (イワヤ製)」



- 「おさんぽ速斗 (イワヤ製)」



- 「うちのスーパードッグ さかだちラッキー (イワヤ製)」



## ぬいぐるみの糸切りと縫製

- ・「[おさんぽだいすき キャンキャンチワワ \(イワヤ製\)](#)」



- ・「[まねっこおしゃべりぴょんぴょんアンパンマン](#)」



- ・「[口をパクパクしてまねをするベア](#)」



## ぬいぐるみの糸切りと縫製

(c) パンヤ綿（手芸用綿）の処理

- ・仕掛けを取り出す時、パンヤ綿を取り出すことがあります。その場合少しずつ最小限を取り出します。
- ・取り出したパンヤ綿の周りにネジや部品を置くと、パンヤ綿に絡んで紛失することがあります。  
パンヤ綿をスーパー袋など入れてまとめます。
- ・また、2か所以上からパンヤ綿を取り出した場合には、元に戻す時それぞれの量で戻すため、個々にスーパー袋などに入れます。
- ・パンヤ綿を手が入らない所へ戻すには、割りばし（割る前の）のような綿が絡む棒で押し込みます。
- ・ぬいぐるみは、パンヤ綿の量による質感や手触りが大切です。

修理後にパンヤ綿をお腹などに戻しますが、「[口をパクパクしてまねをするベア](#)」のように、大きな抱きぬいぐるみの場合、一度取り出したパンヤ綿は解かれてしまい、元の位置に戻すとパンパンに膨らんでしまいます。

糸切り直後



パンヤ綿戻し直後



このままでは縫製し難いので、ぬいぐるみ布を引き寄せ、開口の高さの中心辺りをブックバンドで縛り、その近くを縫製糸で仮留め縫いをします。

更にその上下の2か所も仮留め縫いをし、開口の幅を狭めて縫い易くします。

その後、縫製糸を引っ張りながら縫っていきます。



## ぬいぐるみの糸切りと縫製

### (d) 裁縫道具

100均で販売している裁縫セットでも使えないことはないですが、余計なものが多いです。

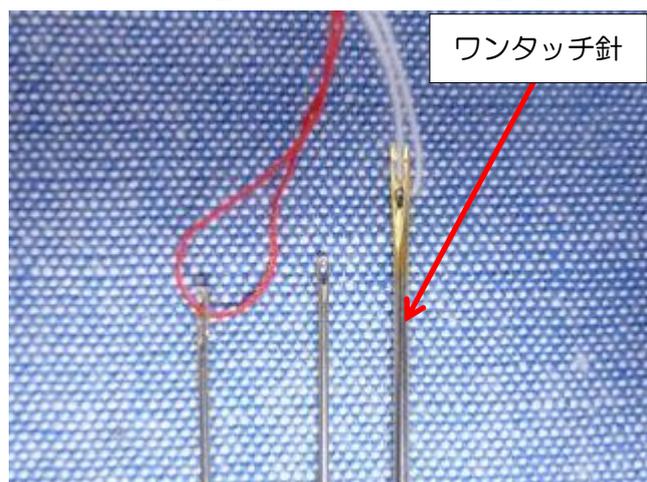
むしろ100均で個別に使いやすいものを揃えることをお勧めします。

一例として、

針（木綿針・中針・カーブ針）、裁縫はさみ、糸通し、リッパー、縫製糸（木綿・ポリエステル（白・黒・赤など）、指ぬきなど、すべて100均で間に合います。



- 縫製糸は厚紙の巻き枠に小分けするとコンパクトになります。
- 針にもワンタッチ針と言う、針穴の上に切り込み割りの入ったものがあり、糸を上から押し込めば簡単に針穴に通せます。糸通しが楽ですが、太い糸でないと同様に縫っている最中に、引っ張って糸が外れるという欠点があります。
- 薄い段ボールを切って厚みの面に針を刺せば、針山に代用できます。



## ぬいぐるみの糸切りと縫製

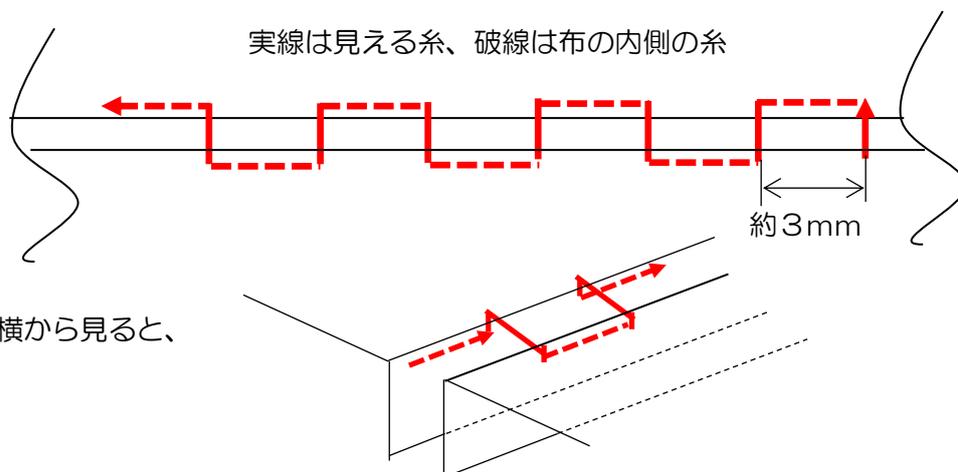
## (d) ぬいぐるみ布の合わせの縫い方

- 糸の太さは、切った糸と同じ太さがベストですが、手持ちの糸で1本糸あるいは2本糸で縫います。
- 糸の色は、動物などのぬいぐるみであれば毛足の長い布なので、縫った糸が見え難いです。従って、糸の色にこだわらなくても良いです。ただし、白や赤の布はできる限り白や赤い糸を使った方が目立ちません。
- 縫った面の裏側は見えないので、縫い目を気にすることはありません。
- 縫い方は、布の厚み質そして縫う幅によって変えても良いですが、一般的に「まつり縫い」をします。「斜めまつり」や「たてまつり」そして「コの字まつり」などです。

<https://book.nunocoto-fabric.com/2914#1>

その中でも、「コの字まつり（はしごまつり）」をお勧めします。

イラスト的には、上から見ると、



文章やイラストでは伝え難いので、YouTube®の、  
<https://www.youtube.com/watch?v=GeiCW80jg0Q>  
を参考にしてください。

終わり